

佐賀県高等学校

P T A 新聞

発行 佐賀県高等学校PTA連合会
 佐賀市南佐賀3-11-15
 (佐賀県立佐賀高等学校内)
 電話 0952(29)2573
 F A X 0952(26)5435
 印刷 大同印刷株式会社

佐賀大会のお礼と子どもの成長を願って

会長 西岡 豊



明けましておめでとうございます。希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

ここ数年、各単PにおけるPTA活動も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、なかなか思うような活動ができなかったと思います。昨年5月頃から少しずつ本来の活動ができるようになり、佐賀県連の業務も本年度は11月の地区別指導者研修会まで計画どおりに行うことができました。

さて、昨年の6月には九高P連大会「つながりさがそう」佐賀大会を開催しましたが、4年ぶりに通常開催ができ、また、会員の皆様のご協力により成功裏に終わることができました。この佐賀大会の開催に当たっては、令和3年10月から準備を進めてまいりました。翌年には実行委員会を組織し、大会会場が佐賀市内であることから、運営面は佐賀地区のPTA会員で、他の4地区については大会に参加することで協力する、という基本的な役割分担をして大会に

臨みました。大会当日は大雨警報が出るような悪天候の中でしたが、佐賀県連のスタッフの皆さまの心温まるおもてなしに、参加された他県の会員の方からお礼の言葉をたくさんいただきました。この紙面をお借りして改めまして会員の皆さまにお礼と感謝を申し上げます。

ところで、最近様々な研修の場で講師の先生から似たようなお話をよく聞きます。それは、最近の子どもたちは行動をする前に自分自身で「無理」だとか「できない」とかを判断し、失敗する体験が少なくなっているという話です。失敗する権利も子どもたちにはあり、失敗を繰り返すことで耐える力も経験も積み重ねることができ、それが自身の大きな成長につながるという内容です。また、家族の愛情が子どもたちの心の成長に大きな影響を与え、といったこともよく聞きます。子どもたちは学校では先生や友人と、家庭では家族との関わりを持ちながら大人へと成長していきます。

私たちのPTA活動も、子どもたちの健全な成長と将来の夢実現の一助となることを願って続けていきたいと思っています。

最後に、会員の皆さまのご健勝とご多幸を祈念いたしまして年頭の挨拶といたします。

三神地区

当番校 三養基高校



令和5年度三神地区高等学校PTA指導者研修会が、11月29日(水)に「みやき町コミュニティセンター」にて開催されました。

参加者は三神地区の7校の保護者・関係職員約60名でした。

令和5年度三神地区高等学校PTA指導者研修会が、11月29日(水)に「みやき町コミュニティセンター」にて開催されました。

佐城地区

当番校 龍谷高校

10月26日(木)、令和5年度佐城地区研修会を「グラウンデ」にて開催しました。

来賓として、学校教育課係長 溝口隆一郎様、本連合会会長の西岡豊様、事務局長久保隆慶様をお迎えし、佐城地区各校から保護者・関係職員110名が出席されました。

開会行事後は、佐賀子ども支援の輪、佐賀子どもシェルター「ばーん」施設長松隈智子様より「スマホ時代を生きる子どもたち」、「風難塾」のキャリア教育コーディネーター大島清美様より「教育shift」〜つくるのは未来、挑戦を楽しめる場づくりの始め方〜という演題

【開会行事】

三神地区連絡協議会の松永会長より挨拶があり、その後来賓の佐賀県高等学校PTA連合会事務局長の久保様よりご挨拶をいただきました。

【報告】

講演の前に、全国高P連宮城大会と九高P連佐賀大会について、神崎高等学校PTAと三養基高等学校PTAよりそれぞれ報告が行われました。

【講演】

今回、講師には岡山コミュニケーション研修講演企画代表の稲田尚久先生をお招きしました。貴重な機会でしたので、初めて7校全ての保護者の方にも講演会への参加を呼びかけました。

演題は「今日から使える！ 思春期の関わり方〜イライラガミガミにさようなら〜」でした。思春期の子どもの態度にイライラする場合、どうすればもつと気持ちを楽しんで関わることができるのかについて、お話しいただきました。稲田先生は元



中学校教師で、我が子へイライラをぶつけていた元イライラ親父だったとのこと。教師経験も活かした豊富な事例と、自身がイライラを家族へぶつけてきた父親としての反省を活かした内容に参加者は共感しやすかったようです。失敗経験を包み隠すことなく面白おかしく伝えていただき、笑いながら楽しく学ぶうちに、1時間はあっという間に過ぎ去りました。

で講演をいただきました。

松隈様の講演では、性暴力を含めたX(旧ツイッター)等によるトラブルやいじめに繋がる事例をリアルに紹介され、その対処法等について説明されました。出席者の大半が、大人がスマホの機能を知ることの大切さや法律・警察の適切な活用等の必要性について理解され、子どもとの向き合い方について考えさせられた機会になったと思います。

大島様の講演では、まず「笑顔の大切さ」について強調され、「風難塾」が未来の英雄を育成することを目指し、起業家精神旺盛な若者を育てる支援活動について説明されました。グループワーク後は、他の先進国に比べ日本の子どもたちの精神的幸福度が低いことを踏まえ、子ども



もには失敗する権利があることや創造的思考の重要性について述べられ、多くの方が、待つ・任せる・見守るといった意識が大人に求められていると認識されたのではないのでしょうか。



○佐賀県が運営する就職情報サイトで、高校生・学生・転職者向けに、佐賀県内の企業情報や就職イベントなど就職に役立つ情報を掲載
 ○県内企業で活躍する先輩の生の掲載や企業情報のオンデマンド配信で、県内で働く情報を保護者の方も入手可能

URL : <https://saga-job.jp/>

【お問い合わせ】 佐賀県産業労働部産業人材課 TEL0952 (25) 7310

お知らせ

- 来年度の佐高P連「会費」及び全国高P連賠償責任補償制度の「掛金」は今年度と同じです。
- 佐高P連事務担当者会議 4月23日(火) 14時〜「グラウンデはがくれ」
- 佐高P連通常総会 6月11日(火) 14時〜「グラウンデはがくれ」
- 九高P連大会「熊本大会」 6月20日(木) 会議関係「ANAクラウンプラザ」
- ANAクラウンプラザ 21日(金) 分科会・全体会等「熊本城ホール」
- 全国高P連大会「茨城大会」 8月21日(水)〜23日(金) 「アダストリアみとアリーナ」

春 秋

今年度から新型コロナウイルス対応の行動制限が緩和され、学校行事はコロナ禍以前のものに戻りました。始業式、終業式、壮行式等の式典は全学年が体育館に入場し、文化祭・体育祭はクラス模擬店、合唱コンクール、市民会館の使用、多彩な個人・学年種目など従来の内容で開催されました。新入生の学校生活の充実・躍進を支える宿泊研修は4年振りに実施できました。生徒は教育活動に満足感と充実感を覚え、主体性と積極性、人との深い絆を持って学校生活を送っています。

新学習指導要領が中学校は2年前から全学年実施となり、高校は昨年からの新入生に導入され、来年度に第1期の課程修了となります。主体的・対話的で深い学び、社会に開かれた教育課程などを目標に教育を行っています。

中央教育審議会の次期教育計画では、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイング(精神的豊かさ)の向上」が構想の柱となっており、地域連携の探究活動、国際交流、理数教科やデータサイエンスなど、新しい時代に必要となる学びの拡充が進められています。自己肯定感と達成感を持ち続け、社会の課題を解決し、未来を創り上げる人材の育成が最大の目標となっています。

世界的にも、国連が策定したSDGs(持続可能な開発目標)の2030年までの達成に向けて各国で濃厚な取り組みが行われています。日本の達成度は現在21位とされています。

今後の学校教育の在り方において普通科改革が重要視されており、その推進に取り組んでいきます。

鳥栖高等学校・香楠中学校
校長 高尾 伸之

厳木駅活用プロジェクト

佐賀県立厳木高等学校

厳木高校の生徒は9割以上が厳木駅を利用してきます。厳木駅は生徒にとって親しみのある駅です。毎年、生徒会や部活動の生徒を中心として、輪番制で駅の清掃活動を行ってきました。教育振興会でも、厳木駅を地域の交流・活性化の拠点とらえています。令和4年度は厳木町の土曜夜市において、本校ボランティア部・美術部の生徒とともにイベントに協力しました。こうした活動について、全国高等学校PTA連合会の優秀単

P表彰を受けることができました。

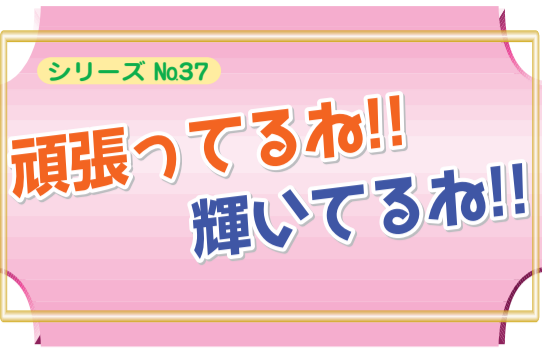
令和5年度においても、厳木駅を使いやすい駅にし、地域の活性化につなげるべく、教育振興会と生徒会が協力して活動を行っています。役員と生徒が一緒にミーティングを重ね、厳木駅の改善について考えました。そこで出された意見について生



美術部が作成したランタン



今後も、教育振興会と生徒が連携して、取り組みを続けていく予定です。



本校は、県の「SAGAコラボレーション・スクール」の重点校に指定されています。地域社会とつながり、主体的な学びを育成することを目的としています。総合的な探究の時間、課題研究を軸に地域連携活動に取り組んでいます。

昨年度に引き続き、1年生を対象に地域連携講座が普通科キャンパスにて行われました。今年度からは商業科キャンパスの1年生も参加し、再編後初めて両キャンパスの生徒を混合しての授業となりました。



本校に関わりのある、白石町、大町町、江北町の3町を中心に、地域の課題に取り組み行政の方や地域おこし協力隊の方などを講師に迎え、全部で10講座が開かれました。生徒たちはグループにわかれて講座を受講しまし

地域連携講座について

佐賀県立白石高等学校

た。どの講座もとても興味深いお話ばかりで、生徒たちも地域の課題に真剣に向き合っていました。途中、グループワークで意見を出し合い、キャンパスの垣根を越えて同じ課題について学ぶことができました。



今後は、地域の課題についてさらに学び自ら取り組むチームを決めていく予定です。講師の皆様、お忙しいところ本当にご協力ありがとうございました。

鹿藤地区

当番校 嬉野高校

秋晴れのさわやかな風が入り込む10月2日(月)午後、鹿島、藤津、嬉野地区のPTA会員40名の参加で、鹿藤地区PTA指導者研修会が開催されました。

【各種大会報告】

太良高校の緒方校長から第72回全国大会宮城大会の報告があり、仙台育英学園高校野球部監督の須江航氏の講演内容を中心に話していただきました。強いチームに育てるためだけでなく、人の成長に欠かせないメッセージを多く伝えていただきました。そして、鹿島高校PTA熊谷会長からは、第67回九州大会佐賀大会の報告がありました。自県で開催された大会であり、入念に準備されてきた大会への感謝と今後のPTAの前進的な発展を願う言葉を述べていただきました。

【講演】

講演は西九州大学 高尾兼利教授に「親の人生と子どもの人生のつながり〜その光と影〜」という演題でお話しいただきました。この講演の一部を紹介し

唐松地区

当番校 唐津西高校

11月17日(金)、唐松地区PTA指導者研修会を、唐津市の長崎荘にて開催しました。佐賀県高等学校PTA連合会事務局長久保隆慶様を来賓に迎え、約55名の唐松地区のPTA等役員及び管理職、担当職員の参加がありました。

研修会では、まず唐松地区PTA本年度当番校の唐津西高等学校校舎の前田勝久会長挨拶、来賓の佐賀県高等学校PTA連合会の久保隆慶事務局長の挨拶

杵西地区

当番校 白石高校

10月13日(金)、白石高校にて杵西地区連絡協議会指導者研修会及び常任委員会を開催しました。杵西地区10単Pから37名の方の参加をいただきました。杵西地区高P連会長挨拶、会場校長挨拶、来賓の佐賀県久保事務局局長挨拶に続き、佐賀県産業労働部産業人材課参事原美和氏、白石高校スクールカウンセラーサンボン賀弥子氏に講演をしていただきました。

原美和氏の講演では、佐賀県の高校生の就職・進学の実状についてお話をいただきました。本県は、子どもの出生率は高いが人材流出で就職・進学も県外希望者が多い。この問題解決のためにプロジェクトを組んで県内の企業に目を向けさせる取り組みをしていることなど詳しくお話をいただきました。



次にサンボン賀弥子氏には、「レジュエンス」とは何か。また、レジュエンスを高めるために親・教員はどのようにアドバイスをするべきかについてお話をいただきました。レジュエンスとはストレスに対して心身ともに元に戻ろうとする力のことであり、安定した環境で、食べる・寝る・排泄という土台をしっかりとできるような育てることがレジュエンスを高めることであり、また、柔軟で楽観性を持った考え方を持たせることも大切であることなど分かりやすくご説明していただきました。



今回の指導者研修会も複数校から参加をいただき、情報交換や情報共有をし、有意義な時間となりました。



情報発信がきっかけとなっていくことや加害者となる10代が増えていることなどを知り、被害者にならないようにという視点で、子どもたちが挫折感に囚われたときに、子どもたちがSNSに頼らないようなサポートをしていくことが大切であるということを学ぶことができました。最後に、事例発表として唐津南高校のPTAの活動報告について重貴樹会長から発表があり、高P連全国大会について唐津工業高校PTAの福浦恵理子副会長から報告があり、高P連九州大会について唐津青翔高校教育振興会の清水久会長から報告がありました。